

令和4年度 第3回八代市総合教育会議 会議録

(令和5年2月20日)

令和4年度 第3回八代市総合教育会議 会議録

【開催日】 令和5年2月20日（月）

【場所】 八代市役所 庁議室

【出席者】 中村博生 市長
北岡博 教育長
渡邊裕一 教育委員
奥村留美子 教育委員
早田 蛍 教育委員
澤村 互寛 教育委員

【出席職員】 中 勇 二 教育部長
橋口幸雄 教育部総括審議員兼次長
松川由美 教育部次長
田中智樹 教育部理事兼教育政策課長
田北佳一郎 学校教育課長
稲本健一 教育施設課長
高崎博文 生涯学習課長
櫻井幸枝 教育サポートセンター所長
松村哲治 教育部理事兼博物館未来の森ミュージアム副館長
佐藤圭太 市長公室長
浅川公利 秘書広報課長
本村秀記 スポーツ振興課長
陣内敬貴 教育政策課指導主事
星田章広 学校教育課指導主事兼保健体育係長

【事務局】 萩本誠子 教育政策課教育政策係長
西村妙子 教育政策課参事

【協議事項】 (1) 中学校部活動の段階的な地域移行について

1 開会 (午後1時00分 開会)

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 中学校部活動の段階的な地域移行について

田北学校教育課長 資料により説明

中村市長 明日、県から市町村への説明会があるのであれば、そのあとでこの会議を開いたらよかったのではないかと。

北岡教育長 この会議が決まったのちに県の説明会の日程が決定された。

奥村教育委員 協議を始める前に、本日のテーマやいろいろな対策の現状も大体わかったが、協議の柱は何か。きょうの話し合いの中身がどこかに反映されるのか。そうすると、重要な重みを持ったものになるし、柱がわからないと何についてどのように言えばいいのか、決議をするのであれば、この会の決議の意義などあると思うので、少し絞って提示してもらいたい。

中村市長 何をここで決めて明日の説明会があるのかわからない。現状を話してもらって、どういうことを決めていけばいいのか。

中教育部長 総合教育会議は、いじめなどの重大事態などがあった場合は、どう対応するかというような決議をするが、それ以外の場面では、決議ということの審議ではなく、議題について、どのようなことに気を付けて検討してもらいたいというような、教育委員と市長の立場から配慮が必要な点などの意見をいただく場と考えている。本年度の1回目、2回目もそのように意見をいただいたと考えている。今回もそのようにご意見をいただければと思っている。

奥村教育委員 決議でないのであれば、意見を出しやすいように柱1、2、3とか示してもらいたい。

中村市長 国のガイドラインに沿って行うのか、モデルパターンによって行うのか。国のガイドラインに沿ってこのモデルパターンを参考に出しているのか。

中教育部長 国が出されたガイドラインに沿って八代市のパターンを検討していくことになる。ガイドラインのこの部分はどういうことか、具体的にはどういうことが考えられるのか、資料では一般的に示されたパターン等を説明しているので、八代市の場合はどういうことが考えられるのか、そのときには、どういう注意点があるのかなどのアドバイスを頂けたらと思う。

奥村教育委員 では、質疑からでもいいということか。

渡邊教育委員 部活動改革は、教師の働き方改革と少子化という2つの柱で進めていくと感じた。八代市の検討委員会は、今後さらに何回も行われると思うが、どんな内容を今後、どんなゴールを目指して行われるのか、概略がわかっていたら教えてもらいたい。

星田学校教育課指導
主事兼保健体育係長 今まで2回、検討委員会を開催し、そこで出た意見を資料の最後に付けている。県の説明会がずれこんでいて、踏み込んだ具体的な話を進められなかった。明日ようやくその説明会があるとのことなので、3月に検討会を開催する準備をしているところで、そこで今後の方向性を示していくと思う。八代市には、市街地、山間部、学校規模など、様々な学校が存在している。合同部活動についても、比較的すぐできるところ、場所が離れて難しい学校、実態が違うのが八代市の現状である。全体を同じ形に統一した動きは無理があるので、移行できる部、移行できない部、それぞれの状況を踏まえながら、学校ごとに、いろいろなパターンが出てくるのは致し方ないのではと検討委員会の中でも出ている。これらを精査しながら、子供にも有益な、先生方の働き方改革にもつながるような方向を目指して行ければと思っている。具体的なモデルを出すのは、少し難しい段階である。

奥村教育委員 協議の持って行き方がつかめた感じがする。なかなか柱を示されても私自身どんな意見を出していいかわからないので、ガイドラインを聞きながら、お尋ねを出してみて、どうすればいいかわからないという人のほうが多いと思うのでその人たちへ答える形で、今後の検討に役立ててもらえればと思う。

1点目は、資料のガイドラインの概要に、移行が進んでいく段階で、どういう運営団体があるか、①市区町村が運営団体となる体制、②地域の多様な運営団体が取り組む体制と大きく2つ示されている。八代市の場合は、様々な特色を抱えた校区があるにしても、移行をスムーズに運ぶための運営団体は、①と②のどちらに当てはまるのか。各学校は、毎日子供たちを安全に登下校させて、休日部活動もやっとの思いで運営している。その中で移行を進める体制はどうなっているのか。

2点目は、やりたいという意欲を持った教員が兼職兼業できるという制度について、死んでもやりたくないという教員は実際いないと思う。意義成果の中で子供の喜ぶ姿と一緒に生かされた教員のほうが多いと思うが、それでも現状厳しいので地域

の力、専門家に委ねようということだと思う。それでもやりたいという教員のための兼職兼業が挙げられているが、その教員は、今までどおり教材研究もし、校務分掌もし、意欲だけで部活動も続けるのか、どこかで配慮が働く兼職兼業の在り方になるのか、具体的な姿について何かあればお願いしたい。

3点目は、モデルパターン10で保護者会等が教員に指導を依頼する場合とあるが、これで成り立つ学校、今も成り立っている学校もあると思う。保護者主体となった場合、地域移行の第一歩な気がする。学校においては保護者主体に頼もうとなっても、次の段階にどうなるかということ、保護者は先生たちを知っているから頼もうとなつて、結果、具体的な地域の指導者を見つける苦労もあり、おおむね先生たちをお願いすることになる。なぜか、部活動の指導もさることながら、先生が子供たちのことをよくご存じで、先生たちをお願いしたほうが子供たちは間違いないという信頼感からで、そのようにお願いされるケースが出てくると思う。そういう場合のモデルパターン10に対する配慮事項はどうなっているのか。

星田学校教育課指導
主事兼保健体育係長

1点目について、①の場合は、モデル事業を行っている市で、団体を立ち上げて、事業を行っているところがあるが、かなりの労力であるようだ。②の場合は、既存の地域スポーツクラブが運営母体を引き受けた場合、企業等が運営母体を作つて引き受けた場合などで、どのパターンにしても一長一短あると思う。今後精査しながらどのような形があるかを検討委員会で煮詰めていかないといけない。

2点目は、現在中学校部活動があり、教員外指導者又は部活動指導員導入の段階であれば、部活動を当分の間継続することになる。教員は顧問となり、現在と同じ形になる。教員外指導者又は部活動指導員が増えると、顧問をしなくていい教員は少なからず出てくるかと思う。また、顧問でも土日指導に携わらなくていいという状態になると思う。兼職兼業の制度は、平日は中学校の部として活動しているが、土日は、地域移行により学校部活動から切り離されたときに、部活動の先生が土日も引き続き指導をしたいと希望した場合に、指導に携わることが可能になる制度である。熊本県からは具体的な説明はまだ行われていない。勤務形態もあるし、兼職兼業のため、給与が地域の団体から支給され、教職員という身分ではなく一指導者として携わることになる。将来的に、平日も地域移行した場合は、放課後違うクラブとしてその中学校で活動することになるが、勤務時間までは先生、それ以降は、そのチームの指導者に身分が

変わって指導する。今までしていたからやって欲しいとかではなく、先生の勤務状況や考え方、やりたいからやる、やらされるからやらなければいけないではなく、その線引きは所属の校長、教育委員会、部の運営母体が本人の意向を含めて整理をして、携わるシステムが必要かと思う。

3点目も、部活動顧問ではなくなったときは、指導に携わるためには本人の意向、教職員としての勤務の状態等を把握した上で決める必要が出てくる。兼職兼業については、校長、教育委員会で把握して明確に線引きする必要がある。

奥村教育委員

最終的にはやるかやらないかは、その先生の意向ということだったが、個人で決めるというときに、子供との部活動が好きだからということになると思うが、それでもある程度セーブがかかる取り決め事項を今後検討委員会で話し合われるのか。どんなに本人がやりたいからやりますだけでは、頑張り過ぎじゃないかとなったときに、ある程度の基準やルールがあったほうが、先生に指導を依頼する人たちにとっても効果的な制御をかけやすいというルールのようなものを検討されるのか。

第2回検討委員会で、部活動指導員を導入しているところとしていないところがあるとのことだった。部活動指導員があるかないかでは、八代市の学校の多様性に対応した部活動を推進する上でも、希望すれば、指導員に入れてもらえるなどの基礎条件が整っていないと結局最後は、学校ごとに自分たちだけで苦勞することになりはしないか。今後に向けての部活動指導員の整備はどうなっているか。

星田学校教育課指導
主事兼保健体育係長

兼職兼業のルールは、任命権者の熊本県から示されることになっている。検討委員会の範疇ではないが、国や県からある程度統一したルールができてくるので、運用については、教育委員会が学校と連携を取りながら、本人の意向とは言ったが、ワークライフバランスを鑑みながら、無理をしないような携わり方をしていくことは必要だと思う。

部活動指導員は5年前から始まっていたが、全国的な部活動改革が始まったときも、暫定的な措置ということもあり、また、学校数、部活動数が多く、教員外指導者も60数名関わっていて、全員に対応ができないだろうということで、本市は手を挙げていなかった。総合的なガイドラインが示されている中で、部活動指導員が当分の間続くということに変わってきているため、学校数、地域の広さ等により、同じ形で進められないという本市の現状から、部活動指導員を導入して欲しいというの

が検討委員会の意見であった。事務局としても必要だと考え始めている。部活動指導員は、会計年度任用職員となるため、給与が発生してくる。時給1100円以内で、時給×時間数×日数となり、1/3ずつ国・県・市で負担となっている。国からの補助金事業となっているので、人数、財政面の協議が必要である。

田北学校教育課長 奥村委員が非常に心配されているのは、先生たちが引き続き指導しないといけないのではということだと思う。小学校部活動を地域移行したときは、先生たちは自分の学校の部活動の指導に関わらないというルールを作った。ある先生が好きな種目だからと引き続き部活動に関わるとすると、他の先生たちが断りにくくなるという弊害がある。ただし、勤めている学校以外の住んでいる地域で、地域の一員として関わるのは良いというルールにした。保護者から無理に頼まれたときに、嫌々関わるのを避けたという経緯がある。国も地域移行については、学校が先生たちにやりたくないのに強制するものではないとしている。自分の意思がある者については、兼職兼業で認めていくという考えである。基本的には、地域移行して先生たちの手を離れていくと考えてもらいたい。

モデルケースにある複数の学校で集まって、1つの学校でやるとなった場合に、指導者が見つからないときは、複数の学校それぞれの顧問で1週おきにローテーションを組んで行えば、1人当たりの負担は減る。いいパターンではないが、基本的には地域の方々に委ねていくが、指導者が見つからない場合は、先生たちの負担を減らしながらできるのではないか。例えば陸上競技だと、1つの競技場に集まって、みんなで一緒に行い、先生たちも当番で行うなどもできる。野球のようなチームスポーツも部員が減ってチームが作れないという状況が中規模校でも出てきているので、チームスポーツでも土日一緒に練習するパターンが今後必要になってくるのではないか。そうしないとチーム練習が成り立たないというところも出てくると思う。スポーツ指導者は、協会にも人材派遣をお願いしてこうと考えている。スポーツ団体の協力がなければ、指導者の確保は難しいので、小学校の地域移行のときに作ったスポーツ指導者人材バンクの中学校版を作成して、探していきたいと考えている。一部のスポーツでは、地域移行をチャンスととらえ、例えば、ラグビー部は学校部活動にはないがクラブを立ち上げることで、競技を盛んにしようと考えておられる競技団体もある。マイナースポーツも子供たちを集めて活動が始まるのではな

いかと思われる。

奥村教育委員

小学校でも中学校でも、先生たちが嫌々というわけではなく、もう少し現状改善がされたらできるという気持ちの先生たちが日本全国に多くて、このようなことになったのだろうと思う。また、ガイドラインの資料の中に「意欲ある教師等の円滑な兼職兼業」とあるが、しない先生は、意欲がないのかとひっかかった。諸般の事情からやめる傾向にあるならやめましょうかという状況で学校現場のことを汲んでということだと思うが、中学校の部活動の意味合いを考えると、今後の検討委員会の検討にご苦労様ですという思いである。

モデルパターン④は生徒の移動が伴うが、教職員の働き方改革に配慮が重くかけられているのはありがたいが、ほぼ子供たちは、休みを除けばフル回転である。その上で、なおかつ、日により週により部活動が移動ということになると、子供たちの移動は徒歩、自転車、送迎バスなどあるのか。

星田学校教育課指導
主事兼保健体育係長

これは一例で、もし導入するのであれば、平日休日移動が伴うことになるので、移動をどうするのかというのを検討していかないといけなくなるということである。放課後移動できそうな距離の学校同士であれば可能だが、全市的に近くの学校といっても、隣まで数キロというところはいくつもあるので、1つのパターンとして示している。

奥村教育委員

資料のモデルパターン4, 8, 10, 11と4つ示してあるが、これを取り上げられたのは、きわめて八代で適合する校区があるからということか。

星田学校教育課指導
主事兼保健体育係長

もともと11パターンあるが、きょうの説明でわかりやすいパターンをピックアップしたもので、本市でこれならばという意図ではない。検討委員会でも全てを紹介した段階のため、この地区はこのパターンでということなどを詰めていくことになる。

澤村教育委員

2つ疑問があった。1つ目は、奥村委員が言われた部活動指導員の導入についてで、なぜ八代が導入してこなかったのかということについて、回答があって、予算の裏付けが課題なのだろうということがわかった。国や自治体でも盛んに子育て支援を手厚くしている。部活動指導員の導入も子育て支援につながるものではないかと思う。指導員は、ボランティアでされる方

もいるが、身分の保障がある、収入があるという保障があれば、なり手が増えると思うので、市民として要望していく面ではないかと思った。よろしくお願ひしたい。

もう1点は、第2回検討委員会で出た意見に「運動部活動に比べて文化部活動は活動場所も指導者も不足している。」というものがあつた。部活動はスポーツが中心で、希望者もたくさんいるが、文化部も少数ながら活動している。八代市は、吹奏楽部も盛んで、美術部や箏曲部もある。八代市といえば、子供の頃は文化の香るまちと言つていた。スポーツも大事だが、文化も生きていく上で大切なものだと思う。希望する子供たちの希望が叶えられるように、今後検討委員会でも文化部のほうも話題に乗せて保護者や子供が納得いくようにしてほしいと思つた。

田北学校教育課長 国は、地域間格差をこの機会にぜひ無くしてほしいと言つている。大きな学校は種類が選択できるが、小さい学校は選択肢がない。自分の学校に運動部、文化部もないときに、平日の活動は仕方ないが、土日にどこかに集まって、活動できるチャンスを作つていきたい。吹奏楽部に興味があつても楽器がない、指導する人もいないとなると、平日は、今ある部で活動し、土日は、その活動はせずに別の活動でどこかに集まるというのも大歓迎である。山間部の学校では、選択肢がないので、平日にはできなくても、土日に活動の機会を広げられるように準備を整えていきたい。

北岡教育長 ご質問をいただいて、今から検討委員会でしっかり検討してもらつて、一番ふさわしい形になっていけばいいと思う。先生方の兼職で、学校の先生が部活動の指導をやりたいと言つても状況としては大変な中でやりたいと言つてもらえているのではというのがあつた。自分の経験で言えば、仕事をしながら中学校部活動の指導を行つたが、そのおかげで自分が助かつたと思つている。仕事が忙しく、いろんな悩みもたくさんあつたが、部活動の指導をする時間は、仕事のことを忘れ、中学生のことに集中するので、そのおかげで仕事にも集中できた。そのように思える先生ならば、セーブをかけると逆にモチベーションが下がるということもあるので、そのモチベーションを大切にしなければならない。逆に、子育てもあつて難しいけど、職務だからと考へておられる先生は、緩和してあげて本来の職務に傾注してもらふ。そういうようなことができるといい。自分は、部外指導者で、自分の専門の種目を指導してきたので良い

が、そうではない先生方が週末ごとに部活動の指導をするというのは大変な状況だと思う。そこを緩和することがとても大事で、指導者の確保が一番のネックである。その確保ができるなら、小規模校でやりたいけどできず、違う種目を選ばないといけなかった子供たちが希望する種目をできるようになるという可能性も秘めていると思う。

中村市長

教育長が言われたのは、よくわかる。自分のときも先生たちが部活についておられて、指導され、試合にも連れて行ってもらっていた。そういった中で先生とのコミュニケーションが取れていた。これが子供たちに一番必要な部分だろうと思う。これが先生たちには、という現状があるが、いい指導者がついてももらえれば、そういったことが広がるし、指導してもらうからにはコミュニケーション、親密さがないと子供たちも上手にならないと思う。そういう指導者を見つけるためには、澤村委員が言われたとおり、費用弁償をきちんと出していかないと、なかなか体協にお願いしても、それぞれの競技団体は頑張っているし、いい指導者がいっぱいいるが、考えるとそこが一番大きい。

もう一つは、学校を統合していく時期に入ってきたと思う。部活動でも複数校で活動しないといけない状況である。一中は3つの校区で成り立っているし、そういった形を順次少子化も進んでいる中で、考えて進めていけば、この問題も解決していくのではないかという気がする。

渡邊教育委員

部活動改革を進めていく上で話を聞きながら意見としてまとめた。

この改革が子供にとってよりよいものにしてほしい、子供に不利益があってはならないと思う。小学校の社会体育移行に携わって、現在も校区で携わっている立場からすると、競技人口が減ってきていて、併せて競技力が低下していると感じる。中学校も同じ道をたどる可能性があるかもしれないと気になっている。

小学校の社会体育移行については、スポーツ振興課のバックアップがしっかりできていて、小学校の各校区は安心して活動できている。中学校の移行は行政がどのような形でバックアップできるかわからないが、そこをお願いしたい。

また、小学校の移行のときは、ゴールがはっきりしていた。中学校の移行は、パターンがいろいろあるのはいいが、ゴールをある程度はっきりしておかないと、本腰を入れて取り組まな

い学校が出てくると子供にとって良くない。ある程度のゴールを示すべきだと思う。

また、情報量の少なさが、学校・地域に不安感をもたらしている。適切な時期に適切な情報を発信しないと地域としても協力体制がとれないと思う。

小学校は保護者の力が大変大きく、保護者の運営力のおかげで成り立っている。今後、学校だけでなく保護者・地域がどう関わっていけばいいか筋道を示していただけるとありがたい。

指導者不足は、小学校でも確保が難しく、確保できず休部になるのがあちこちにある。数を揃えても、資質、力量、生徒指導面、特別支援教育面など様々な力が要求されるので、確保が難しい。なぜ見つからないかの1つは、4時半からの指導に対応できる市民が少ないことだと思う。教育長から中学校部活動を指導されていた話があったが、行政支援として、例えば市役所職員も指導したい人がいるはずなので指導に当たりやすい環境を整えられるといいのかと思う。

学校に望みたいことは、休日の指導を望まない先生たちが望まないと言える学校環境をしっかりと作ってもらいたいということである。

奥村教育委員

今年の会議の中で不登校を社会問題としてとらえようと発言した。同じように部活動問題も、もう学校だけではめいっばいで、好きか嫌いかの問題ではない。澤村委員からもあったように、子育て支援の大きな根幹になるし、そのことが地域の活性化につながると思う。学校や関係機関だけでなく、地域全体で、市役所の関係課全部で、総力を挙げて子供を充実した生き方・育て方ができるようにして、将来の八代の土台になってもらいたいと大いにアピールしていかないといけない。今後、基盤の要素を揃えておかないと、人がいないからできないなど、できない尽くしの検討結果になってしまっただけでは残念に思う。そのためにも、できないのはなぜできないのか、どこから何を注入しないといけないのか、例えば指導者の面でも予算的な面であったが、予算をかけている市町村があるのなら、そこはどのようにかけているのか。発想の転換で、子供の時にお金をかけておかないと、八代の将来が危ない、教育委員会の垣根を越えた後のことだと思う。今、不登校のことも部活動のことも、関心の高い人だけが意見を言うのではなく、大きな健全育成の柱として広く検討してもらって、令和5年から7年までの3年間の検討期間で、あれもできないこれもできないで3年間の検討が進むのか、何をするにも最後はお金となる。そういったと

ころを一緒に考えていけたらと本当に思う。

早田教育委員

自分の子どもたちが八代っ子クラブのお世話になっていて、当初は地域の方がなぜ指導しているのかとわからなかったが、移行があった後なのだなとわかり、また、先生たちもこれまでされていて、大変だったなど、ありがたい気持ちでいっぱいである。地域移行をした場合の保護者の懸念としては、いろんな人材が入ってきたときのハラスメントである。本当に教えたい人だけでなく、ハラスメント的なことを思っている方もいるのではないか。その場合、地域移行したときに、だれが責任をとるのか、問題をだれが解決するのか、見極めて入れるとか管理するなどをしてもらいたい。また、予算面では、教える人は一生懸命されているので、ぜひ予算をつけてもらいたい。保護者としても、お金が出ることで責任が伴うので、安心してお願いできる。予算がついて、長く続けていると問題が出てくることもある。きちんとされている人もいると思うが、指導者の管理も心配するところである。

検討内容としては、地域に合った移行やその人がやりたい、先生たちがやりたいということであれば、その人自身が輝けるものになればいいと思う。渡邊委員が言われたように、あの人が指導しているから私もしなくては、という環境があるほうがおかしいと思う。子供たちもその子なりに育ててほしいし、大人もその人なりの働き方、活動の仕方があるといいと思う。

地域間の格差については、自分もへき地だったので、やりたいスポーツがなく、1つしかクラブがなく、みんなそれに入る状態だった。地域間格差の是正といっても保護者の送迎の負担がある。保護者や子供が本当にやりたいと思っているのであれば、八代市内でも民間のクラブ活動がたくさんあって、そこへ送っている現状である。学校でしようと思った時にどれだけの子が来るのか。また、周りにもクラブ活動やスポーツに触れていない子供たちも多いので、選択肢自体が出てこないと思う。地域間格差をなくして、市内に作ってどれだけの子供が来るのか。それをするのであれば、本腰を入れて、バスを出すとか、こういうクラブがあると働きかけないといけない。民間のクラブ活動があるので、そこの対応。市としては、ここまではするが、ここからは自分たちでやってくださいというものがあると保護者としても、判断がしやすいと思う。

星田学校教育課指導
主事兼保健体育係長

ハラスメントは、心配な部分である。現在は、部活動ということで、教育委員会の学校教育課で通知・通達を出している。

小学校では、八代っ子クラブ運営協議会が統括している。部活動である限りは学校教育なので、学校教育課が管轄になるが、生涯活動、スポーツだけでなく文化も含めてこういった形で主管していくかは協議が必要であると思っている。ゴールは、学校から部活動がなくなるという方向なので、そのときの統括をこういった形でとるかは検討課題である。

部活動が残りつつ、今後の地域移行も鑑みると、やりたい活動に対する選択肢という点では、例えば、全校生徒30人では野球もサッカーもできなかったけれど、他の学校と1つの部として活動できるとしたら、野球部が存在することが可能となることが考えられる。生徒は減ってきているが、部活は増えるという可能性もある。ただし、放課後どうやって移動するのかという問題もある。そこも検討しながら、現実どのくらい増えるかわからないが、複数校で合同の部活動となれば、増える可能性もある。

奥村教育委員

指導者の獲得が一番大きな点と思う。最初から神様みたいな指導者はいない。私自身、教員になったときは、ひよこほどの力もなかったが、教員を続ける中で、周りの力を得ながら、少し一人前の教員に育ってきたという自分の反省と振り返りがある。新たにお問い合わせする指導者にとっても、変容できる機会、指導者になった後の育成を含めて、運営団体、大きく八代市の部活動を考える母体が広い基盤を持っていて、ある程度誰が見ても分かるルールを示しながらやっていく。うちの子も隣の子も見てもらっているという意識で地域の人が新たな方向性と資料の中にあったが、今後新たな部活動が地域に与える影響等も考えたら、そういった面も含めて部活動で地域づくり、人がつながるという一貫になりはしないかと話を聞いていた。

中村市長

貴重な意見ありがとうございました。明日説明会があつて、3月には、第3回の検討委員会をされるということなので、明日の話ときょうの話を含めてきちんと協議してもらいたい。まだ、入った段階と認識している。大変大きな課題なので、引き続き、委員も指導を含めてよろしくお願ひしたいと思う。

4 その他

「スタディサプリ」デモンストレーション

5 閉会

(午後2時30分 閉会)